

## テーマ：口腔内吸引を持続的に行いたい

### ■ 背景

- 口腔内に貯まった唾液や、嚥下できずに口腔内に残った食べ物や水分を、吸引装置と吸引カテーテルを用いて体外に吸い出すことを「口腔内吸引」と言う。看護師が吸引できる範囲は、咽頭より上部に限定されている（口腔内～鼻腔内まで）。
- ALSや加齢に伴う反射機能が低下した患者さん、嚥下障害など喀痰分泌過多の疾患など、自力ですべての鼻水・唾液を排泄できないと喀痰が局所に溜まってしまい、呼吸困難や窒息、肺炎などの感染症の原因となる。これを防ぐため、口腔内持続吸引を行なっている。
- 口腔内にチューブを留置し、唾液を吸引するが、粘度の高い分泌物を吸引するとチューブが目詰まりを起こしてしまうことがある。



<出典：看護roo!>

### ■ 現状の対処法

- 目詰まりを起こした部位を吸引器で吸い上げる。
- 定期的に水を通して点検することもあるが、作業完了までに時間を要する。また、分泌物の粘度を低くするために、患者に水分補給を勧める。
- 粘膜の近くを直接吸引するため、吸引圧にも気を付ける必要がある。吸引圧が強すぎると粘膜を傷つけ出血するリスクがある。
- 粘度が高く、喀痰が黄色～緑色で、臭気強い場合には細菌に感染している可能性が示唆され早期治療に結び付く場合もある。従って、喀痰の状態観察は大切である。

### 機能アイデア例

- 構造的（チューブの太さ等）に詰まりにくい機能
- 材質的に分泌物が付着しにくい機能



### ■ 市場性

嚥下障害は加齢による機能低下以外に脳卒中後遺症やパーキンソン病、ALSなどの疾患に基づくことが多い。患者数は2021年度は脳卒中が112万人、パーキンソン病が21万人、ALSが約1万人と報告されている。従って、口腔内吸引チューブのニーズはとても大きい

### ■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>